

とむらいしぐろけもんじょ 十村石黒家文書

種 別	小松市指定文化財 古文書
指定年月日	昭和42年11月3日
所 在 地	金平町（個人蔵）

石黒家は、軽海組 25 か村の十村^{とむら}(1)役を務めた家である。初代三郎左衛門は慶長年間に十村に任命されたとき、当初西俣村に居住していた。4代源右衛門のときに川の下流の沢村へ、後にはさらに下流の金平村へと移った。7代源次の時代に石黒家を名乗り、金平金山の開発や越中船見野用地開さくに成功するなど、加賀藩内でも屈指の十村となった。

その石黒家に所蔵されている文書が石黒家文書である。972 点に及ぶこの文書は、旧能美郡域における数少ない十村文書であり、数量の豊富さ、内容の幅広さ、保存状態の良さから、市内では最も高い歴史的価値を持つ古文書の一つである。元和2年（1616）からの文書が保存され、中には慶安の御触書や金平金山絵巻、十村任命書など非常に貴重なものもある。また鉾山関係の資料は、近世経済史研究上欠かせないものの一つである。

(1) 十村：加賀藩において、複数の村を束ね、年貢の徴収や農民の監督を行う村方の最高職。

